

講義名	人間関係論/ヒューマンリレーション論			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時間	後期 金曜日 3 時間 / 後期 金曜日 4 時間		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
			ナンバリング・コード	SOP181	

主題と概要

この授業は、実際にどこかで起きた人間及び人間関係上の出来事を書いたケースを取りあげ、担当教員がファシリテーターとなって、学生による活発なディスカッションを行う時間の連続となる。毎回、個人学習、グループディスカッション、クラスディスカッションというプロセスを経て、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキル（到達目標参照）を身につけることを目指している。

到達目標

自らの考えや感情を表現する勇気と、ほかの人の考えや感情に耳を傾ける思いやりを発揮できる。
 ケースという他人事についてディスカッションする過程で、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキルを身につけている。
 問題を発見する力、分析する力、解決する力を身につけている。
 ディスカッションに自ら進んで取り組むことができる。
 自ら目標や課題を設定し、それを成し遂げたり解決に結びつけることができる。
 現象や事象のなかに隠れている問題やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。
 ディスカッションに際して、他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。
 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力してディスカッションを進めることができる。
 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができるようになる。
 8回にわたるレポート作成を通じて、情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができるようになる。
 8回にわたるディスカッションやレポート作成を通じて、新しい視点と豊かな発想によって新しい価値を見いだすことができるようになる。

提出課題

毎回の授業内容に基づく課題に関するレポート（200～400字）の作成を課題とする。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回課されたレポートは、学生一人ひとりに100字程度のコメントをつけて返却し、よりよいレポートの書き方や授業中のディスカッションをより充実したものになるよう指導するとともに、到達目標を一つでも多く達成し、また少しでも深く達成できるように支援していく。

評価の基準

レポートによる評価（40%）と授業への参加状況や貢献度（60%）をもとに評価する。中間試験・期末試験は行わない。毎回の授業への取り組みとレポート課題の出来ばえが評価の対象となる。その意味では毎回の試験の連続ともいえる。なお、授業に出席してもレポートを期限通り提出しないことや授業に欠席してレポートだけを提出するのは認められない。いずれも欠席と見て扱われる。授業5回分の欠席をもって評価の対象外となるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

教育効果を最大限に高めるため40名を定員とする。申し込みが定員を超えた場合は教員による抽選を行う。
 二週に一度のペースで1回あたり2コマ連続で開講する。
 毎回のディスカッションの連続となるので、学生一人ひとりの積極的な参加と、発言等の貢献が不可欠となる。そのためには2コマ連続の授業に備えて体調を整えて出席し、熱心かつ積極的に取り組むことが求められる。授業に出席しても、グループディスカッションに消極的であることなど受講態度がよろしくない学生は、共に学ぶ他の受講学生にとってよりよくない影響をもたらすので、出席回数に関係なく評価の対象外とする場合がある。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

授業中に随時ディスカッション用ケース（プリント資料）を配布し、参考文献を適宜紹介する。

授業計画

1. 授業概要の説明とケース・ディスカッションに関する講義
2. ケース「諦めるべきか続けるべきか」に関するディスカッション
 (予備)「ケース・メソッド」と「ケース・メソッド」の違いを事前に調べ、大まかに理解しておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
3. グループワークを高めるためのコミュニケーション・ゲーム(1)「鏡の宝島」
4. グループワークを高めるためのコミュニケーション・ゲーム(2)「ハッピーファーム」
 (予備)「コミュニケーション・ゲーム」のスリットや進め方の注意点について調べておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
5. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション(1)小講義・個人学習・グループ・ディスカッション
6. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション(2)クラス・ディスカッション
 (予備)大学の授業で自分が好きな授業と好きな授業の相違をそれぞれ調査し、まとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
7. ケース2「フランス種の授業」に関するディスカッション(1)小講義・個人学習・グループ・ディスカッション
8. ケース2「フランス種の授業」に関するディスカッション(2)クラス・ディスカッション
 (予備)大学の授業であなたが実際に経験した「恥ずかしい経験」または「腹立たしい経験」を400字程度でまとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
9. ケース3「クオスの御本家 高倉千明」に関するディスカッション(1)小講義・個人学習・グループ・ディスカッション
10. ケース3「クオスの御本家 高倉千明」に関するディスカッション(2)クラス・ディスカッション
 (予備)あなたが高校時代または大学時代に実際に経験した「クラスのイベント」(とくに文化祭、学園祭へのクラス参加)を400字程度でまとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
11. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション(1)小講義・個人学習・グループ・ディスカッション
12. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション(2)クラス・ディスカッション
 (予備)あなたが実際に経験した事前の人間関係問題を可能な範囲で400字程度にまとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
13. ケース5「マーケティング・サービス部長への昇進」に関するディスカッション(1)小講義・個人学習・グループ・ディスカッション
14. ケース5「マーケティング・サービス部長への昇進」に関するディスカッション(2)クラス・ディスカッション
 (予備)あなたが実際に経験したアルバイト先での人間関係問題を可能な範囲で400字程度にまとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(420分)
15. 全体のまとめ：小講義とディスカッション
 (予備)これまでの授業を振り返り、得たこと、学んだことを400字程度にまとめておくこと(60分)
 (復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(180分)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもと到達目標の達成をもって、本学の学部共通ディプロマ・ポリシーである次の5点の育成に貢献するものである。「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、「自主・自立の精神を持った人材」仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材の育成を目指す。また、心理コースが育成を目指す「さまざまな場面に直面する人間の心理を行動科学的に分析し予測することができる。」ことと、「コミュニケーション能力と、消費者と接点を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と接客場面での心理学を応用することができる。」ことの育成にも貢献するものである。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回のディスカッションの連続となるこの授業では、学生の発言なくしては成立し得ない。学生の発言内容一つひとつを担当教員が連続に板書しながらディスカッションが進むという双方向性の非常に高い時間の連続となる。また、クリッカー（レスポンス）を活用した小課題により学生の興味関心を高め、学びの質を高める機会を積極的に設けていく。以上の過程で到達目標を一つずつ達成していくことを目指す。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

学生が活発なディスカッションなくしては成立しない授業ゆえ、体調を整え、心身共に万全を期して出席することが不可欠となる。体調のよろしくない状態の学生には耐えられない1180分となるからである。ただし、体調を整え、積極的に取り組む学生にとっては、活発なディスカッションにより多くの学びを得て、自身の成長が実感できる授業の連続となることが期待される。なお、留学生在がこの授業を履修する場合は、毎回、大量の日本語文書を読み、日本人学生とのディスカッションやグループワークに積極的に取り組むことが求められることをあらかじめ承知しておいてもらいたい。